

教育研究業績書

2024年10月22日

所属：経営学科

資格：講師

氏名：黄 テイテイ

研究分野	研究内容のキーワード	
経営学、社会学、計算基盤	経営情報、情報システム、高齢者福祉、経営戦略、技術経営	
学位	最終学歴	
経営学	博士	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. [PBL]名物ミックスジュースをもっと若者に届けるプロジェクト	2022年5月2022年8月	PBL型講義として、阪神電鉄の大阪梅田駅にある「梅田ミックスジュース」の課題解決を念頭に、若い世代を中心に広げていけるかを調査・研究し、具体的な解決策を提案しました。学生の自主性を引き起こすために、学生個人の初回の提案に基づくグループ分けをし、アンケート、インタビュー、イベントなどいろんな調査研究を行い、素晴らしい提案を発表し、高い評価をいただきました。
2. [PBL]若年層向け防災グッズ開発・PRについての提案プロジェクト	2021年10月2022年3月	PBL型講義として、「防災グッズ」と「防災意識向上に向けた情報発信」をテーマに、若年層に向けた企画・提案をおこないました。神防社さんから業界・製品説明会を設けて、消火器体験なども行い、調査だけではなく、実際に製品開発や宣伝動画作りにも挑戦し、素晴らしい最終発表をやり遂げました。プロジェクト終了後に再度、兵庫工業会の理事会に成果発表させていただきました。
3. [PBL]文房具の新商品・販売企画	2021年10月2022年2月	PBL型講義として、マーケティング戦略立案スキルを養成するため、戦略立案演習をコンペ形式で実施しました。コクヨさんから二回の企画に関する講義を設けて、中間発表後の交流やライブオフィス見学も行いました。その後、情報収集、環境分析など終えて、アンケートとインタビュー調査を行いました。中間発表の後に、実際に製品テスト・作りにも挑戦し、素晴らしい最終発表をやり遂げました。
4. [受賞]オンデマンド型講義の授業改善	2021年10月	令和3年度前期 授業改善奨励制度：2021年前期に担当された科目における授業方法の工夫と実践について、武庫川女子大学の教育の質向上に高い貢献度が認められました。 1. 予習と復習が徹底し、クラスメートから学ぶ環境 〈①事前小テスト+②授業後小レポート+③期末テスト〉 2. 用意周到な教材 〈①Preziで作った講義動画用レジュメ②PPTで作った詳細な講義資料③動画をセクションごとに分割するバージョンも用意〉 3. 成長に繋ぐフィードバック仕組み 〈①優秀レポートの開示；②全体的に宿題の評価〉
5. 立命館大学 経営情報論 ゲスト授業	2018年12月	立命館大学の経営情報論のゲストスピーカーとして、経営情報システム分野における中国の最新事例研究（伝統文化IPを生かす道）を学部三年生（出席者150名前後）に紹介した。学生がこの講演に通じて、中国の伝統文化と博物館における情報化の推進と情報技術の応用を知り、理解しやすいかつ面白いと好評であった。
6. 研究方法論に関するゼミ指導	2014年3月	自分の指導先生の研究室の助手として、月一回のペースで後輩の三人の学生（研究生2人と修士1年生1人）に経営情報システム分野の慣用の研究方法論を紹介した。学生にとっては、専門分野の概要や専門分野の論文の理解が深まったと好評であった。
2 作成した教科書、教材		
1. 企業情報システム I	2021年9月～	講義用教材

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
2. ネットビジネス入門	2020年9月～	①Prezi で作った講義動画用レジュメ（集中力が維持でき、図と動画がメインで目の負担が少ない） ②PPT で作った詳細な講義資料（一冊の教科書より内容が豊富、復習しやすい） 講義用教材
3. DEP Comic 2018（英語） デジタルイネーブルメントプロジェクトコミック 2018	2018年7月	①Prezi で作った講義動画用レジュメ（集中力が維持でき、図と動画がメインで目の負担が少ない） ②PPT で作った詳細な講義資料（一冊の教科書より内容が豊富、復習しやすい） DIGITAL ENABLEMENT RESEARCH PROJECT OF UNSW (http://www.deproject.org/) 教材全体の概要：インドネシアのスマートシティ、ベルリンの飲食業イノベーションMND、中国の中関村などデジタルイノベーション事例を中心に、インド教育省の予備導入の教材として検討された。10篇の英語事例が漫画のイラストがメインで、低学年の学生でも読めるITビジネス教材として作成した。
4. DEP Comic 2018 & PPTバージョン（中国語） デジタルイネーブルメントプロジェクトコミック 2018	2017年8月	教材全体の概要：ICTの利活用による日本の限界集落の地域再生、物流APP、ベルリンの起業家生態系など八篇のデジタル技術の利活用の事例研究を含めた教材。 小・中学生でも読めるビジネスを学ぶための教材として、わかりやすい言葉使いや漫画のイラストをメインにし、PPTバージョンも提供した。平成29年8月の中国農村教員養成キャンプの教材として使われた。平成30年度にマレーシア小学校SJK Kulaiの予備教材として検討された。
5. DEP Comic 2017（英語） デジタルイネーブルメントプロジェクトコミック 2017	2017年7月	教材全体の概要：平成29年度にインド教育省の予備導入の教材として、デジタルイネーブルメントプロジェクトのデータベースの中にある英語事例（10篇）を選び、低学年の学生でも読めるよう漫画化した。内容は日本の二次元経済からタイのソーシャルメディアによる災害対策などを含めた。
6. DEP Comic 2017 & PPTバージョン（中国語） デジタルイネーブルメントプロジェクトコミック 2017	2017年1月	教材全体の概要：組織におけるデジタル技術の利活用をテーマに、中国のTA0BA0村、ドイツのグリーンエネルギー村、インドネシアのGO-JEKなど八篇の漫画を入れた各事例を小・中学生でも読めるビジネスを学ぶための教材にした。授業に使いやすいよう、PPTバージョンも提供した。平成29年度にマレーシア小学校SJK Kulaiの予備教材として検討されていた。平成29年8月の中国農村教員養成キャンプの教材として使われた。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. イングリッシュキャンプ2018	2018年10月	平成30年10月27日と28日に江戸川区と東北大学国際会計政策大学院が共催するイングリッシュキャンプは、中高生と外国留学生や外国人と一緒に宿泊し、レクリエーションなどを通して交流するイベントであった。私は助手として、このイベントの準備から参加させていただき、国際文化交流の教育経験を身につけ、未来の教育実践に応用できると考えていた。
2. 教育方法（サンドボクシング）研究会	2018年5月	UNSW大学と北京航空航天大学が開発したサンドボクシング教育方法を勉強・議論した。まだ、この教育方法を実践した先生方と交流した。企業が授業のデザインから実施までに参加し、学生が実際の課題を解決することを体験できる。サンドボクシングを一種の問題解決学習法として取り入れられると考えた。
3. ADR研究会	2018年4月	この研究会はAction Design Research (ADR)という業界・教育・研究をすべて取り入れられる研究方法について、その最初の研究デザインや具体的な仕事などを議論した。この方法によって、教育と研究の両立ができるため、教育の質や研究の影響力が大幅に上がることが期待できる。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4. UNSW大学との共同研究	2017年11月	UNSW大学のPan先生との共同研究はデジタル遊牧民、情報技術、社会的行動の相関関係とインタープレイを対象にした。こういう新しい職業形態の研究内容が授業に活用でき、学生の未来の職業選択にも参考になると考えた。
5. TRAプロジェクトに参加	2017年7月	Theory Recommendation and Analysis (TRA)プロジェクトは複数の大学の先生・学生が連携し、事例研究によく使う理論を推薦するシステムを開発するのを目指していた。自分は二つの理論の整理をしていた。この推薦システムは学生の研究テーマにふさわしい理論をお勧めできるため、今後の学生指導に強いツールになると考えていた。
6. SPS研究会	2016年7月	事例研究法の一つとして、SPS (Structure-Pragmatic-Situational) という研究方法論があった。平成28年に北京のSPS研究会からの誘いでこの研究方法論の実践・授業法などについて、他の先生方や学生と交流した。この研究会に基づいて、SPSを研究方法論の授業に日本の学生にも紹介できるように準備していた。
4 その他		
1. デジタル戦略論	2022年9月～現在	本講義は、デジタル戦略論の基本概念からはじめ、様々な事例をあげながら、デジタル時代に組織が成長するための新しい戦略やビジネスモデルの革新方法について、その必要な知識について事例を踏まえて学ぶ。
2. 経営課題演習II	2022年9月～現在	学生が、提示された経営課題に対して、有効な資料やデータの収集を行い、その課題の解決をビジネスチャンスにつなげるロジカルな事業を立案できるようになることが目標である。
3. [実践学習]名物ミックスジュースをもっと若者に届けるプロジェクト	2022年5月12日2022年8月4日	阪神電鉄の大阪梅田駅にあるジューススタンド、「梅田ミックスジュース」。名物のミックスジュースを知っていただき、小さい店が50年以上続いている秘訣についてご説明します。また中小企業の多くが抱える「販促」の問題を中心にどうやって小さなお店の魅力を、現在取り込み切れていない若い世代を中心に広げていけるかを調査・研究し、具体的な提案をします。
4. [グリットナビ]英語基礎	2022年4月13日～現在	英語を上達したい学生や特に公務員を目指している学生のために英語の文法に関する基本知識を伝えております。
5. 専門演習I, II, III, IV	2022年4月12日～現在	学生が主体となってより高度な学習・研究を行い、卒業研究に関する知識や思考力を重視し、ゼミ内での討論や発表を通じて、討論・口頭発表能力を習得する。専門演習での文献講読や体験学習を踏まえ、卒業研究では専門分野の観点から各自の研究対象を絞り進めていく。
6. 経営課題演習I	2022年4月12日～現在	社会的ニーズを持つ経営課題について、実証的な資料やデータから具体的な事業提案を行うことを目的とする。学生が、提示された経営課題に対して、有効な資料やデータの収集を行い、その課題の解決をビジネスチャンスにつなげるロジカルな事業を立案できるようになることが目標である。
7. [グリットナビ]文章理解 (英文)	2021年11月3日～現在	公務員を目指している学生へ文章理解の過去問をベースに解説講義を行っています。過去問をGoogleフォームで何回でもやり直せることができ、解説だけではなく文章の中の重要な単語と文法についても詳しく説明していきます。
8. [グリットナビ]日課 (英文)	2021年11月1日～現在	英語を上達したい学生のために購入した「The Japan Times」の内容をGoogleフォームに作り直し、平日にクラスルームにアップしています。学生が毎日に英語に触れる環境を大事にしております。
9. [実践学習]まなびの課題を解決！文房具の新商品・販売企画	2021年10月8日2022年2月4日	”マーケティング実務への興味・関心や、マーケティング戦略立案スキルを養成するため、戦略立案演習をコ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
10. [実践学習]若年層向け防災グッズ開発・PRについての提案プロジェクト	2021年10月5日2022年3月16日	ンベ形式で実施致します。コクヨ株式会社のマーケティング職の社員と共に、課題に立ち向かいながら、学生様の将来に繋がる実践的な教育効果の獲得を目指します。 ①「自主学習に適した文房具」②「ICTツールを活用した学習シーンに適した文房具」という2つのテーマから1つをお選び頂き、それぞれの学習シーンから抽出した課題に対して、文房具を通じて解決する商品企画・販売企画を検討してください。” 近年、地震や記録的な豪雨による災害が増え、災害対策に緊急を要しているのが現状です。本来は非常時に使うようなものを日常の中で定期的に使用し、補充しながら備蓄する「ローリングストック法」が提唱され始め、少しずつ防災への関心が高まりつつあります。そこで今回の実習では、黄先生の指導のもと防災への意識・行動調査やトレンドの防災アイテムなどの調査を通して、“防災グッズ”と”防災意識向上に向けた情報発信”をテーマに、特にまだまだ防災意識の低い若年層に向けた企画・提案を行って頂きます。
11. 企業情報システム I	2021年9月～現在	「企業情報システムI」は「ネットビジネス入門」より情報技術と企業経営の関係について重点を置き、「ネットビジネス入門」に学んだ知識を更に深掘りします。
12. [実践学習]ソーシャルビジネスの広報戦略	2021年4月から2021年8月	住宅の開発事業者と住民が、連携しながら、地域が抱える課題を主体的に解決できるようなまちづくりに取り組んで、そんな団地の空きスペースをリノベーションして立ち上げた貸スペース “HAMACO: class” でイベント企画・執行を実践します。
13. 初期演習II	2020年9月～現在	主体的・対話的で深い学びを実現するアクティブラーニング教材 「みんなのドラマ」を使ったグループ・ディスカッションを行います。
14. [実践学習]神戸・三宮に「親子の世界をひろげるサードプレイス」をつくる！	2020年6月から2021年2月	今回の活動・実習内容としては、事業設計とそれに紐づく調査活動業務、マーケティング、クラウドファンディング、企画、SNS活用、広報、運営、等のオープン前期間、立ち上げに関わる幅広い業務を立ち上げメンバーと一緒にお手伝いします。
15. [実践学習] MaKids教室 ワークショップ運営体験	2020年6月2021年2月	子供向けプログラミング教室にお越しいただき、90分のワークショップを運営する経験の基礎を学んでいきます。スタッフとして運営のサポートも行って、また、授業以外の時間で子供用プログラミング言語スクラッチの体験・研修も実施します。
16. 初期演習 I	2020年4月～現在	①学科の3つのポリシーと卒業生の進路に基づき、自らの4年間の学習行動計画を立てる。 ②自己分析をもとに自分の適性や進路について考え、自らのキャリアパスを確立する。 ③学生生活上起こりうるトラブルとその解決方法等を学び、グループディスカッション等を通じて、良識ある行動をとるための自己規範を構築する。
17. ネットビジネス入門	2020年4月～現在	「ネットビジネス入門」は情報技術と情報通信技術の基本から始め、電子商取引を中心の各ネット・ビジネスの仕組みや知識を事例に介して説明します。
18. 情報リテラシーI&II	2020年4月～現在	データの収集方法をアンケート調査の実施も含めて理解し、実際に自身で収集したデータに対して、エクセルの関数や図表作成機能やデータベース機能とワードおよびパワーポイントを活用して、経営目的に応じた簡潔な報告書と発表用スライドが作成されます。アクセスを利用して、さらに、配列、分岐、繰り返しのプログラミングの基礎も理解して、Visual Basicで簡単なプログラムが作成でき、簡単なウェブサイトを作成できます。

職務上の実績に関する事項				
事項	年月日			概要
1 資格、免許				
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
1. ニューサウスウェールズ大学のDigital Enablement Projectのコーディネーター	2016年1月			DEPは組織におけるデジタル技術の利活用をテーマとしたオンラインの事例データベースです。自分はコーディネーターとして、各事例を審査・管理し、ウェブサイトに関連するその他など。
4 その他				
1. [学内委員会]国際センター委員会	2024年4月1日~現在			国際センター委員会に関する審議や国際業務の補助など 「新しい武庫女教育」実現に向けて、研究推進に関する仕事をいたします。 新型コロナの進行状況に応じて、PCR検査の実施など関連する仕事をいたします。 大学の情報システムの改善や教職員の情報リテラシーの教育などに関する仕事をいたします。 教職員の相互親睦及び福利厚生に関する仕事をいたします。
2. [学内委員会]研究推進委員会	2021年11月1日~現在			
3. [学内委員会]PCR委員会	2020年4月1日~現在			
4. [学内委員会]情報セキュリティ委員会	2020年4月1日~現在			
5. [学内委員会]親睦会委員	2020年4月1日~現在			
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. IS Management Issues within the New ERP Life Cycle towards the Final Decision-making (東北大学 「新ERPライフサイクルにおける企業情報システムマネジメント諸課題に関する研究」)	単	2017年9月25日	東北大学 経済学部博士後期課程 経営学博士学位	
2. A Conceptual Model of Enterprise Resource Planning (ERP) System Life Cycle from Go-Live to Withdrawal (東北大学 「運用開始から運用終了までのERPシステム・ライフサイクル概念モデル」)	単	2015年3月25日	東北大学 経済学部博士前期課程 経営学修士学位	
3. Optimization Algorithm based on Improved Chaotic Particle Swarm (改善されたカオス粒子群に基づく最適化アルゴリズム)	単	2006年7月1日	華東理工大学 自動化系 工学学士学位	
3 学術論文				
1. A Risk Management Model for Information Systems Development	共	2024年9月(査読中)	Computers in Industry	この研究は、情報システム開発 (ISD) プロジェクトにおけるリスク管理を、ベンダーの視点から分析することを目的としています。日本のベンダー企業のリスク評価フレームワークを紹介し、文献と比較しながら、ベンダーの視点が重要であることを強調しています。また、269のISDプロジェクトを基に、努力と時間の両面を統合した

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Projects from the Vendor' s Perspective: Empirical Japanese Evidence				<p>回帰分析による複合モデルを構築し、59のリスク要因から7つの重要な要因を特定しました。特に「データ移行の責任」と「顧客への遅延の影響」が重要であることが分かり、リスクの強度が必ずしもプロジェクトの失敗率に直接関連しないことを示しています。</p>
2. Identifying Three Affordances in ICT-Enabled Community-Based Social Support Systems for the Elderly: A Study of Four Japanese Cases	単	2024年7月25日	ICT4AWE 2023 - Springer Selection (pp.1-18)	<p>日本は高齢者の割合が高い国として、この人口層の社会生活の充実に大きな進歩を遂げています。この研究は、質的な方法論を用いて、ICTが高齢者のコミュニティ形成と社会生活の向上にどのように活用されているかを日本の4つの事例を通じて詳細に分析しています。特に、ICTを活用したコミュニティベースの社会支援システムにおける3つの主要なアフォーダンス—構造的、資源的、心理的—を検討し、これらのシステムにおけるアフォーダンスの概念をより深く理解するための枠組みを提供しています。システム要素、具体的な資源、心理的要因がどのように相互作用し、社会支援システムの効果に影響を与えるかについての理解を深める視点を提示しています。これらの発見は、ICTを活用して高齢者コミュニティを豊かにすることの潜在性と、その際に直面する課題の両方を浮き彫りにしています。</p>
3. Technology-triggered Social Affordances: A Netnography Study of Digital Nomads (Part 2)(査読付)	単	2021年3月31日	「武庫川女子大学紀要」第68巻 (2020)	<p>The smart devices, the high-speed network, and the cloud computing with other technology infrastructures provide the mobility and accessibility of resources and enable the lifestyle of digital nomads. In the author' s latest research on Digital nomads 1), Digital nomads were introduced and nine technology affordances in the digital nomad community were identified. In Part 2, the structure of Technology-triggered social affordances is proposed based on in-deep analysis and interpretation of four types of digital nomads. The findings show the mechanism of Technology-triggered social affordances, in which the interplay between the features of technology and the social characteristics of group enable specific social behaviors through the process of individual technology affordance over larger periods and collections of actors.</p>
4. Technology Affordances Identification: A Netnography Study of Digital Nomads (Part 1)(査読付)	単	2021年3月31日	「武庫川女子大学紀要」第68巻 (2020)	<p>Digital nomads are portrayed as location-independent professionals working solely in an online environment while leading a new form of flexibility in combining work with a new vision of personal life. The commoditization of digital technology accelerates the growth of the digital nomad community. In this research, the author draws on the theoretical perspective of technology affordance to look into the years of digital nomads' lives for exploring the interplay among individuals, technology, and society. Findings uncover nine technology affordances on the individual level and show the features of technology adopted by digital nomads and the characteristics of digital nomads.</p>
5. 経営戦略とIT戦略のねじれ構造モデルの構築と検証(Design and Verification on the Torsion Structure Model between Business Strategy and IT Strategy)(査読付)	共	2020年9月28日	経営情報学会誌、第29巻第2号、pp. 105-127	<p>本研究では、情報システム刷新時にプロジェクトの納期遅延を起こしやすい構造的要因を分析するための「経営戦略とIT戦略のねじれ構造モデル」を提案する。</p>
6. Decision-making to Switch Your ERP System: Empirical Japanese Evidence	単	2018年9月	International Journal of Information Systems and	<p>ERPの刷新・改修を経験した企業を対象にし、ERPライフサイクルの最終段階のリアリティーを明らかにし、一つ的意思決定モデルを提案した。</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
(ERPシステムを切り替える意思決定：実証的な日本の証拠) (査読付)			Project Management, Vol. 6 No.3, pp. 21-41	
7. Inventing a Business-ERP Alignment Assessment Model through Three Japanese Companies (三社の日本企業によるビジネス-ERPアライメント評価モデルの提案) (査読付)	共	2018年7月	Business Process Management Journal Vol. 25 No. 1	組織とERPシステムの連携状況を定量的に評価することを目的とし、三つの日本の会社の保守データを使う新たなERPアセスメントモデルを提案した。
8. Peeking at the ERP Decline stage: Japanese empirical evidence (ERPの衰退段階の調査：日本の実証的証拠) (査読付)	単	2016年8月	Computers in Industry, Vol. 82 No. 2016, pp. 224-232	四十社 (ERPの刷新・改修経験済み) を特定し、その経験に関するデータを分析し、衰退期の実態を明らかにした。
9. Reinventing the ERP Life Cycle Model: From Go-Live to Withdrawal (ERPライフサイクルモデルの再定義：運用開始から運用終了まで) (査読付)	共	2016年1月	Journal of Enterprise Resource Planning Studies, Vol. 2016, No. Article ID 331270, pp.1-21	各分野におけるライフサイクルという概念について包括的な検討を加え、新たな「ERPライフサイクル」の定義と概念的ERPライフサイクルモデルを提案した。
10. Comprehensive review of literature survey articles on ERP (ERPに関する文献調査の包括的なレビュー) (査読付)	共	2016年1月	Business Process Management Journal Vol. 22 No. 1, pp. 2-32	ERPに関する広範な文献レビューを徹底的に調査し、既存の研究課題を整理・分析し、この分野の研究重点と研究の空白を明らかにした。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. ICT-Enabled Community-based Support System Matrix for Elders: A Social Support Perspective in Japan	単	2023年4月23日(発表予定)	The International Conference on Information and Communication Technologies for Ageing Well and e-Health (Prague, Czech Republic, 22-24 April, 2023) pp. 102-109.	少子高齢化社会の日本ではICTの利活用による高齢者支援システムの四つの事例を研究対象とし、それらの成功要因や特徴などをモデル化し、ほかの自治体や国の高齢者支援事業に貢献する。
2. Enacting Eldertech in Senior Citizens' Communities of Japan: A Social Support Perspective	単	2018年10月(学会発表) [国際学会]	the Third International Conference on Informatics and Assistive Technologies for Health-Care,	少子高齢化社会の日本ではICTの利活用による高齢者支援システムの複数の成功事例を研究対象とし、それらの成功要因や特徴などをモデル化し、ほかの自治体や国の高齢者支援事業に貢献する。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
(日本高齢者支援におけるICTの活用：社会的支援の視点から)			Medical Support and Wellbeing (Nice, France)	
3. Prepare the Organizations for the Future IS Adoption: A Best-Worst Scaling Delphi Survey (組織における将来の情報システムを導入するために：Best-Worst Scalingデルファイ調査)	単	2016年11月 (学会発表) [国際学会]	The 18th Asia Pacific Management Conference (Sendai, Japan)	Best-Worst Scalingデルファイ法を考案し、ERPライフサイクルの衰退段階における組織的状況やERPシステムに纏わる重要な課題を明らかにした。
4. A Design and Validation of the Issue-based ERP Assessment Model (課題ベースのERP評価モデルの設計と検証)	共	2016年8月 (学会発表) [国際学会]	The 22th Americas Conference on Information Systems (San Diego, CA, USA)	組織とERPシステムの連携状況を定量的に評価することを目的とし、日本の会社の保守データを使う新たなERPアセスメントモデルを提案した。
5. Review of the Concepts, Meanings, and Uses of Life Cycle (ライフサイクルの概念、意味、および使用の見直し)	共	2014年10月 (学会発表) [国際学会]	The 15th Asia Pacific Industrial Engineering and Management Systems Conference (Jeju, Korea)	ライフサイクルの定義を分析して、主要なライフサイクル理論について包括的な検討を加え、慣性的な思考を避けるために共通の用語を再考する必要があることを確認した。
6. ERP Life Cycle Models: An Annotated Bibliographic Review (ERPライフサイクルモデル：注釈付き書誌レビュー)	共	2014年10月 (学会発表) [国際学会]	The 15th Asia Pacific Industrial Engineering and Management Systems Conference (Jeju, Korea)	過去60年間のERPライフサイクルに関する諸段階モデルを分析し、ERPライフサイクル理論の問題点を明らかにした。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. Happy Research Life (幸福な研究者人生)	単	2022年12月21日16時	東北大学経済学研究科 鈴木賢一先生研究室学学部ゼミ	研究職（大学教員や研究所）で皆さんの志願進路にいれられますでしょうか。卒業できるレベルの研究論文と就職できるレベルの研究論文があれば、質の差があることはよく理解できるだろう。子供の時から教師という職業にいい印象を持ってない自分ですが、6年の会社生活を送ったあとに、日本で研究者を目指す道を10年間歩んでいます。会社人生と研究者人生を比較してから見る風景や研究が人生観に与えたインパクトなどを皆さんに共有したい。
2. Health Data Platform WM: Innovation of the User, Business and Social Win-win Model (健康データプラットフォームWM：ユーザー、ビジネス、	単	2016年4月 (教育事例研究)	Digital Enablement Project The University of New South Wales	ユーザーの健康関連データの包括的な分析やリアルタイム配信などWMの健康データプラットフォームは、個人の生涯にわたるパーソナライズされた健康援助などを提供するだけでなく、国のスポーツ人口を増加させることを目指していた。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
ソーシャルウィン ウィンモデルの革新)	共	2016年3月 (教育用事例研究)	Digital Enablement Project The University of New South Wales	日本の限界的な村落問題がますます深刻化する中、ICTを活用して地域活性化を達成する方法が注目されている。このケーススタディは、過去30年間に上勝町のビジネス開発と情報構築の要点を深く解明した。
3. Marginal hamlets in Japan: Regional revitalization based on ICT (日本の限界集落： ICTによる地域の活性化)				
4. JR East next- generation vending machine: Big data × interactive communication technology (JR東日本の次世代 自動販売機：ビッグ データ×インタラク ティブ通信技術)	共	2016年3月 (教育用事例研究)	Digital Enablement Project The University of New South Wales	平成22年には、次世代の自動販売機であるacureが東京の列車プラットフォームに登場した。日本の自動販売業界の衰退を背景に引き続き売上と収益の増加を追及するために、この製品を開発したJR East Water Business Co.の秘密などを述べた。
5. Blackboard future project: Enhancing a blackboard with one smartphone (黒板の将来プロ ジェクト：スマート フォンで黒板を強化 する)	単	2016年3月 (教育用事例研究)	Digital Enablement Project The University of New South Wales	坂川(株)は、100年近く前の黒板メーカーとして、電子黒板のビジネスを危険にさらす可能性のある「Future blackboard」という新しいプロジェクトを立ち上げた。このケーススタディでは、このプロジェクトの背景と進化を紹介した。
6. Virtual World in Japan: Two Dimensional Culture of Otaku (日本の仮想世界： オタクの二次元文 化)	共	2016年2月 (教育用事例研究)	Digital Enablement Project The University of New South Wales	このケースでは、日本の二次元経済がソーシャルネットワーク上でどのように構築され、高効率で持続可能なビジネスモデルをどう形成することについて説明した。
6. 研究費の取得状況				
1. 企業情報システム開 発プロジェクトにお けるリスク管理の実 態と有効性に関する 研究	共	2024年～ 2028年	基盤研究(B) (一 般) (24K00 295) 研究分担 者	予実には差異が生じた本質的な要因の追求や、差異を補う具体的な活動(アクティビティ)に関して個々のプロジェクトへのヒアリング等による定性分析を担当する。
2. 企業情報システム開 発プロジェクトにお けるリスク管理に関 する実証研究	共	2021年4月～ 2024年3月	科学研究費補助金 基盤研究 (20H01547) 研究 分担者	本研究では国内のある大手システムインテグレーション企業での693プロジェクトについて、計画段階で見積もられた計画工数とプロジェクト完了時に実際に費やされた実績工数の差異の実態を示した。さらに、こうした工数の差異に対する計画段階で見積もられたリスク評価との因果関係を把握するため、600以上のプロジェクトを分析しています。
3. Enacting Eldertech in Senior Citizens' Communities of Japan: A Social Support Perspective	単	2019年4月1 日～2024年 3月	科学研究費助成事 業(19K13933) 若手 研究(基金)	・ This research focuses on “the ICT enabled community-based support system” in Japan which has done a great job on improving the quality of the seniors’ social life. ・ The goal is to adopt a qualitative research approach with a multiple case design and the Social support theory to zoom in the research questions: 1) how do various communities use the deployed ICT to support the social life of the seniors? 2) How the general critical success factors (CSFs) act during constructing and managing the ICT project? ・ The originality of this research is that the findings will condense the essence of various Japanese seniors’ support systems for the first time and represent them into a

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
				conceptual model—more clear for (potential) practitioners and future researchers.

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2023年11月11日	「一般社団法人経営情報学会 2023年度全国発表大会」 学生セッションF会場 座長
2. 2023年1月17日から2023年6月11日	経営情報学会JIASMIN2023年年次大会執行委員長
3. 2022年11月12日	「一般社団法人経営情報学会 2022年度全国発表大会」 ポスター発表G会場 座長
4. 2021年6月15日	「一般社団法人経営情報学会 2021年度年次大会 優秀萌芽研究賞」 審査員
5. 2021年6月～現在	経営情報学会 大会理事
6. 2020年12月21日	The 2020 AIS(Associations of Information Systems) Impact Award
7. 2016年11月24日	第18回アジア太平洋経営会議 (18th Asia Pacific Management Conference)セッション「Operations research」 座長